



# 絵本革命 (前編)



みなさんご存知の通り、インターネット・スマホ・タブレットの普及により、年々書店で本を買って読む人が減っているそうです。そんな不況にあえぐ出版業界で、爆発的なヒット作品が立て続けにうまれている分野があります。それが、なんと「絵本」だそうです。ただ、最近の「絵本」は昔の作品とはちょっと違った雰囲気をもつようです。そこで今回は、そんな「絵本」を新旧併せて紹介していきたいと思います。

(※表紙をクリックするとAmazon商品ページへジャンプします。よろしければ、クリックしてお進みください。)

ママがおばけになっちゃった! (著: のぶみ、出版: 講談社)

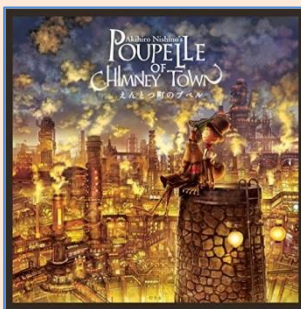
大好きなママが車にひかれて死んでしまったという衝撃の展開から始まる絵本。「感動して涙が止まらなかった」という意見もあれば、「子どもには絶対に読ませたくない」といった意見まで、賛否が大きく分かれています。



賛否両論の迷作

えんとつ町のプペル (著: にしのあきひろ、出版: 幻冬舎)

漫才コンビ・キングコングの西野さんが4年半の歳月と、33人のクリエイターを集めて作り上げた絵本。周りは崖に囲まれ、空は煙で覆われた、外の世界を知らない町で繰り広げられる、ゴミ人間「プペル」と煙突掃除屋の「ルビッチ」との物語です。



なぜねこは100万回生き返ったのか・・・

100万回生きたねこ (著: 佐野洋子、出版: 講談社)

今年で40周年(1977年出版)を迎える、不朽の名作絵本。NHKで映像化されたり、ミュージカル舞台化されたり、絵本に留まらない人気があります。主人公は、100万回死に、100万回生き返った「ねこ」。愛を知らなかった「ねこ」が、愛に気付くストーリーは、子どもよりも大人向けと言われています。その物語ラストの解釈については、人によって意見が分かれるので、親子間・友人間で話し合ってみてはいかがでしょうか。



1枚1枚が絵画のようなアート作品

他にも気になる情報がいっぱい! **Dr.関塾 佐須街道校**

(※作成日: 2017年3月17日)